

尾藤二洲先生



川之江町一円

江戸時代、古賀精里、柴野栗山とともに寛政の三博士と称された尾藤二洲先生は、1747年に川之江町農人町で生まれた。

子どもの頃、医者であり学者であった宇田川楊軒のもとで学び、24才で大阪に出、その後も勉学にはげんだ。1791年、江戸の昌平黌（しょうへいこう）の学者に命じられた。

尾藤二洲の座像は、高原ふるさと館の前にある。



《尾藤二洲生誕地の碑》

農人町公会堂西、八幡神社の対岸にある。

尾藤二洲先生は、1747年、農人町に生まれた。



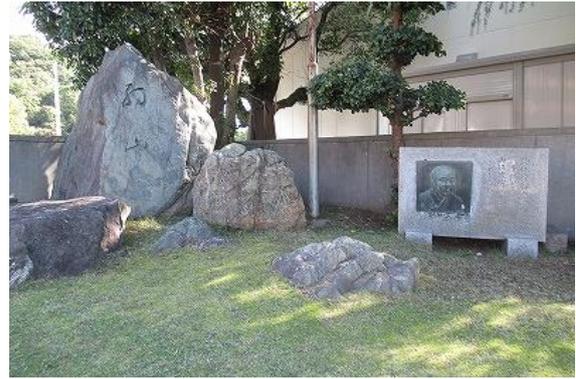
《尾藤二洲顕彰碑》

尾藤二洲先生は、1813年67才でなくなった。城山公園ある二洲碑は大正元年に建てられた物である。



《尾藤二洲先生先学の地》

城山の南山麓の墓地の中に「尾藤二洲先生先学の地」がある。近くには、宇田川楊軒先生の墓所もある。



《約山碑》

川之江北中学校の正門脇に「約山」の碑がある。二洲先生45歳の折の号が「約山」である。昌平校に勤務するにつけその心意気を表明する号である。



《近藤篤山塾跡》

川之江町新町、西川ふれあい塾の南側に立つ。尾藤二洲先生に学んだ土居町出身の近藤篤山先生は、この地で塾を開いた。のちに、小松藩に招かれ、子弟の教育に当たる。篤山先生は、「伊予の聖人」と呼ばれている。



《二洲学舎跡碑》

川之江町旭町、妙蓮寺。
二洲学舎は、1918年から1945年の間あった夜間学校で、戦後、川之江高校定時制に引き継がれた。尾藤二洲先生の名に因んで付けられたもので、現在も川之江高校では、「昔、二洲学舎、今、定時制」を合言葉に勉学に励んでいる。